

憲法ネット103主催シンポジウム

2026年衆議院解散の妥当性と 自民党圧勝後の日本政治の行方 ～憲法学の観点から



日時

2026年3月1日（日）14～17時
オンライン形式（リンクは下記参照）

企画趣旨

2026年1月、高市首相は衆議院を解散しましたが、このような強引な解散が果たして妥当といえるのでしょうか。また、自民党の圧倒的勝利を受けて、今後の政治はどのように進んでいくのでしょうか。これらの問題を憲法学的な観点から検討し、みなさんとともに考えていきたいと思います。

報告者

小松浩「衆議院の解散―首相の『伝家の宝刀』、『専権事項』って本当？」

（プロフィール）立命館大学法学部教授。「劣化する民主主義と選挙制度改革の展望」憲法ネット103編『混迷する憲法政治を超えて』（有信堂、2025年）、「2024年スーパー選挙イヤーと小選挙区制改革の展望」法と民主主義597号（2025年）

成澤孝人「憲法と政治の状況（仮）」

（プロフィール）信州大学経法学部教授。「続・現代イギリス憲法における大臣の個別責任―21世紀初頭における展開―」信州大学経法論集15号（2023年）、「改めて憲法を考える（57）新安保法制違憲訴訟の行方」時の法令2123号（2021年）

*本シンポジウムのリンクは下記の通りです。事前申込は不要です。

<https://us02web.zoom.us/j/88352694465?pwd=WLwFVRkkuQnkurNBtKC7Z7bbLKDbuJ.1>

ミーティング ID: 883 5269 4465
パスコード: 413883